

2013/06/30 礼拝メッセージ 近藤修司 牧師

主 題：主がまず愛してくださった5

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章19節 - 3章23-24節 -

「兄弟を愛しなさい。兄弟を愛し続けて行きなさい。」と、そのことをヨハネは繰り返して教えています。確かに、私たちは人を愛するということがいかに難しいかを知っています。しかし、ヨハネは「それはあなたにとって可能となった。なぜなら、あなたは救いに与ったから。救いに与った者たちは神の愛を頂いたゆえに、その愛をもって兄弟を愛することができる者になった。」と教え続けてくれました。ですから、ヨハネは私たちに、兄弟を愛するということはあなたが救いに与っていることの証拠であると言いました。救われていることの証拠、その確信、実は、このことについてヨハネは繰り返して私たちに教えてくれます。その一つが「兄弟を愛する」ことでした。前回、私たちが見たように、祈りに関しても、また、祈りを通して、その人が救われていることが明らかになるということをすでに見て来ました。1ヨハネ3：22に「また求めるものは何でも神からいただくことができます。」とあります。ここを見ると、欲しいものは何でも神が与えてくださるよう記されていますが、そんなことが聖書の教えでないということは皆さんご存じです。なぜなら、その理由がその後に書かれているからです。「なぜなら」と。どうして神がその祈りに答えられるのか？「なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。」とあります。

◎神が祈りに答えられる理由

- ・神の命令を守っている
- ・神に喜ばれることを行なっている

だから、その人の祈りは聞かれる。そして、これらは救われていることの証拠であるとヨハネは教えるのです。

なぜなら、神に喜ばれることを願いながら日々を歩んでいる人たちは、自分の願いを求めるのではなく神がお喜びになること、すなわち、神のみこころを願いながら歩んでいるからです。だから、その祈りは聞かれるのです。なぜなら、祈りというのは神のみこころが必ず成るからです。私たちの問題は、私たちの願い事が叶うようにと願っていることです。神の約束は「神のみこころが成る」です。ですから、神に喜ばれることをしていきたいと思っている人は、自分の願いではなくて神のみこころが成るようにと祈り、それを求めています。だから、祈りは聞かれると言うのです。ですから、こうして見た時に、神のみこころを求め続けている人、神のみこころが成るようにと祈っている人たちの祈りは、その人たちが救われていることを表わすとヨハネは教えてくれるのです。

だから、兄弟たちを愛するだけでなく、主のみこころを求めてそれに従って行こうとしている人たちは救われていると言うのです。この救いというもの、救いの確信、救いの証拠に関して、実は、今から私たちが見ていこうとしている23-24節でヨハネは教えています。

☆救いの確信、救われている証拠について

1ヨハネ3：23-24「神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。:24 神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知ります。」、23節には、最初にも話したように、神はどんなにすばらしい救いを与えてくださったかとい

うことをヨハネは教えているのですが、ヨハネは救われている人たちのその証拠、彼らが本当に救われているのだということをどうして見極めることができるのか、そのことを実は24節で教えるのです。でもその前に、救いについて23節で教えています。救いの確信、証拠を何度もヨハネは教えて来ました。そのヨハネが「救いとは何を信じることなのか?」「どうすれば救いを得ることができるのか?」そのことをこの23節でヨハネが触れていることに皆さんお気づきになったと思います。大切なところですから、ご一緒に見てみましょう。

A. 救いを得る : 神の命令 (一つの命令) 23節

23節の初めに「**神の命令とは、**」とあって、その後に二つの命令があるように見えますが、神の命令は一つです。一つの命令に二つのパートがあるのです。というのは、この命令は単数形で記されています。幾つもあるのなら複数形で記すはずですが単数形で記されています。何を言っているのでしょうか? 救いを得るためにはどうしたらいいのか?ということですから。そして、同時に、救われていることがどうして分かるのかということにもヨハネは触れています。

1. 信仰告白 — 救いを頂くために何を信じるのか —

23節の初めの部分を見てください。救いを頂くには何を信じたらいいのかです。「**神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、**」とあります。救いのメッセージが簡潔に記されています。私たちは何を信じたらいいのか?何を信じることによって救いに至るのか?ヨハネは「私たちが御子イエス・キリストの御名を信じることである」と言います。

◎御子イエス・キリストの御名を信じるとは?

(1) 聖書から

1ヨハネ5:13に「**私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。**」とあります。ここでは、クリスチャンたちに対して、あなたたちが救われていることを明らかにするためにこの手紙を記していると言うのです。もう一箇所、ヨハネはこの手紙とともにヨハネの福音書も記しています。思い出してください。1:12に「**しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。**」と書かれています。ですから、このようにヨハネはこのヨハネの手紙の中で「**御子イエス・キリストの御名を信じ**」、そして、ヨハネの福音書では「**その名を信じた人々**」と記しています。

ですから、こうして聖書を見ると、イエスという名前を信じたら良いと教えているのではないことは明らかです。イエスという人物についてのこと、イエスという人を信じること、このことを指しているのです。実は、聖書的使用においてこの「名」というのは、その名を名乗る人の「性質と個性」に密接な関係があると言います。聖書的にこの「名前」ということばを使った時に、これはその名前を名乗る人の性質と個性とに非常に密接に関係しているのです。別の言い方をすれば、その人のすべてを指すということです。その人の「一部だけを信じます」と言う場合は「その人を信じる」とは言わないのです。私たちもそうです。だれかを信じると言った時には、その人のすべてを信じているのです。その人の言っていることも行なっていることも信じています。一部しか信じないなら私たちはこのように言います。「信じたいけれど信じられない。この点が引っかかる。信じることができる人になって欲しい。」と。

だから、私たちがだれかを信じていると言った時には、その人のすべてを信じているのです。ですから、ヨハネがここで言いたいことは、「イエス」という名前のことではありません。イエスという人に

ついてです。いったい、彼がだれなのか？いったい、彼が何をしたのか？イエスに関わるすべてのことを信じるということです。

（２）文法的に

また、文法的に見た時に興味深いのは、ここで使われている「御名」という名詞の格が「与格」であることです。なぜ、敢えてここで与格を使っているのか？与格を用いることによってヨハネは個人的関係を伝えたかったのです。ですから、この２３節で「神の命令」は「**私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、**」と記されているのは、イエス・キリストと読者の個人的な関係を言いたかったのです。ですから、ただ名前を知っているとか信じているということではなくて、個人的につながっている。私はこの人がだれかを知っているし、この人が何をしたのかを知っている、そのように個人的に知っているということです。

なぜなら、信仰とはそういうものではないですか？私はこのすべてをお造りになった創造主なる神を私の神として信じている。十字架で死んでよみがえった救い主イエス・キリストを私の救い主として信じていると、個人的な関係です。ですから、皆さん、あなたはイエスが何をしたのか、ひょっとしたら知的に知っているかもしれませんが。聖書を読んで話を聞いて「ああ、イエス・キリストはこんなことをしたのか？」と、そのように頭で理解しているかもしれませんが、問題はあなたとイエスとの間に個人的な関係があるかどうかです。あなたが認めようと認めまいと、イエス・キリストは真の神です。このことは今から見ていきますが、この方は神であり救い主です。問題は、その方があなたの神であり、あなたの救い主かどうかです。

◎イエスの何を信じるのか？

さて、ヨハネは信じるということ、イエスを個人的に受け入れるということを教えるのですが、このような説明を付け加えています。いったい、イエスの何を信じるのかと。「**御子イエス・キリスト**」と書かれています。ヨハネははっきりと三つのことを教えています。「御子」、「イエス」、そして、「キリスト」、これを信じると言います。

（１）御子

「御子」ということばが使われるときは、その人物の神性、つまり、神としての性質がその人にあるということを使うだけでなく、その人は特別な息子であることを強調しているのです。これは私たちが「自分の息子」という意味ではありません。もちろん、イエス・キリストご自身が、永遠に神であられる方が、自らへりくだって父なる神に仕える者になられたこと、イエスが地上におられた時はまさにそうでした。「わが神、わたしの父、父のみこころを行なうことが…」と、ご自分が進んでへりくだる者となりました。ですから、ヨハネが「御子」ということばを敢えて使って伝えようとしたことは、このイエス・キリストとはいったいだれなのか？「彼は御子である」ということです。つまり、神である、本質において神であると言うのです。確かに、父なる神に仕える者としてその働きをされたけれども、彼のご性質は神だと言うのです。それが証拠に、イエスが地上にいらっしゃった時に、イエスは何度も何度もそのことを話されました。

聖書を読んでいて、ある異端者たちは「イエスは神ではない」とそのように断定します。不思議でしょう？なぜなら、聖書を読んでいるなら「イエスが神である」ということは明確です。例えば、ヨハネの福音書５章を見ると、ユダヤ人はイエスを殺そうとしたとあります。なぜなら、彼らはイエス・キリストの主張を理解したからです。イエスがご自分を神としていたからです。そこでユダヤ人たちは「神を冒瀆する者だ」と言ってイエスを殺そうとしたのです。５：１８「**このためユダヤ人たちは、ますま**

すイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。」。同じヨハネ 10：33 にも「ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのためにあなたを石打ちにするのではありません。冒涇のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」とあります。聖書は明確に、イエス・キリストがどういう主張をされていたのかを教えています。イエスは明確に「わたしはすべてを造った創造主なる真の神である。」ということとを明らかにしました。そして、そのメッセージを聞いたユダヤ人たちはそれを理解したのです。

ですから、まず「御子」と言った時に、彼が神であり、そして、父なる神と特別な関係にあるということとを教えたのです。

(2) イエス

「イエス」はヘブル語名の「ヨシュア」のギリシャ語名です。意味は「主は救い」です。同時に、「イエス」という名前を使う時に、この人物が人間であることを明らかにします。イエス・キリストが人であったということは聖書が私たちに明確に教えています。Iヨハネ 4：2 に「人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。」とあります。IIヨハネ 7 にも「なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。」とある通りです。つまり、創造主なる真の神が人となってこの世に来てくださった、そのことをヨハネは言うのです。イエスは神であり、人となってこの世に来られた神だということです。

(3) キリスト

ヘブル語の「メシヤ」のギリシャ語訳です。メシヤとかメサイヤとも呼ばれています。「救世主」という意味です。イエスはご自分が救世主であるということを明らかにされました。ヨハネの福音書 10 章には、ユダヤ人たちがイエス・キリストにこのような質問をしたことが記されています。10：24 「それでユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」と、単刀直入に聞いています。「あなたはキリストなのですか？あなたはメシヤなのですか？救世主なのですか？」と。イエスは何と答えられたでしょう？25 節「イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。わたしが父の御名によって行うわざが、わたしについて証言しています。」。イエスははっきりとご自分がキリストであること、救世主であることを人々に伝えておられたのです。人々はそれを何度聞いても信じようとしなかった。信じたくないからです。みことばをいくつか見ましょう。Iヨハネ 2：22 「偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。」、Iヨハネ 5：1 「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」、ヨハネの福音書 20：31 「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

ですから、「では、いったい何を信じたらこの救いに与ることができるのか?」、ヨハネは言います。「御子イエス・キリストを信じなさい。彼は永遠から永遠まですべてをお造りになった真の神であり、人となってこの世に来てくださった神であり、そして、その神は私たちの身代わりとなって十字架で死んでくださり、そして、三日後にその死からよみがえってくださった。救い主であり、人となられた神であり、そして、永遠に存在なさる真の神である。」と。だから、私たちはこの方に従うのです。この方は神であるゆえにすべての主権者です。この方によって造られたすべての被造物の責任はこの方

を崇めこの方に従うことです。だから、私たちは、神でありキリストであり、人となられた神であり私たちの救い主であり、そしてすべての主権者である主であるお方を、私の神として、私の救い主として、私の主として信じてこの方に従おうとするのです。

まず、ヨハネはそのことを私たちに教えます。ですから、今日、来られた皆さんにお尋ねしなければいけないのは「その点は大丈夫ですか？」ということです。あなたは次のことを信じておられますか？

「私たち罪人を罪から救い出すために、人としてこの世に来られ、死後三日目に約束通り、その死からよみがえられた主イエスは、真の神であり、主であり、唯一の救い主である。また、この主イエスの十字架での贖いは、私を罪から完全に永遠に救い出すことができることを信じる。」と。そして、「この主であり、救い主である主イエスを私の主として、救い主として信じ受け入れたか？」、そのことをひとり一人が自分自身に問わなければいけないのです。

さて、ヨハネは何を信じるかを教えた後で、この命令の二つ目のパートを次のように教えます。

2. 愛し合うことの秘訣

23b節「キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。」、皆さんご存じのように、愛し合うことによって救いを得ることはあり得ません。どのような行ないをもって私たちは救いを得ることはないのです。ヨハネはここで、神の命令とは、こうしてこの救いに与ることであり、同時に、互いに愛し合っていくことであると言います。それが神が私たち人間に対して、被造物である私たちに対して望んでおられることだと言うのです。確かに、みことばは繰り返して「愛し合っていきなさい」と教えています。なぜでしょう？これまでも見て来たように、救われたことは兄弟を愛することによって明らかになるからです。これは神が望んでおられることです、皆さん。私たちが兄弟を愛する者となることです。だれかがあなたに対してどのような態度を取るのかなどは問題ではないのです。もちろん、そこに真理があるかもしれませんが、自分を吟味する必要はあります。もし、人が何か悪いことを言っているならそれを聞いてみることです。反省しなければいけないところがあるかもしれません。言いたいことは、私たちは自分自身に対して責任があるということです。神の前をどのように生きていくかです。そして、神の前を正しく歩もうとするのなら、この神の命令は神を信じるだけでなく、兄弟姉妹を愛しなさいです。それを神が望んでいると言うのです。

ヨハネ13：34－35「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。：35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」、同じヨハネ15：12、17

「：12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」「：17 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。」、また、マタイの福音書22：34－40にも「：34 しかし、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを黙らせたと聞いて、いっしょに集まった。：35 そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして、尋ねた。：36 「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」：37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』：38 これがたいせつな第一の戒めです。：39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。：40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」と書かれています。

クリスチャンが互いに愛し合っていくこと、これ以上の大きな伝道はないかもしれません。もちろん、私たちは当然、ことばでキリストの福音を伝える責任があります。しかし、それをしていても、兄弟を愛していなければ、悲しいことに、私たちは神の命令に従っているとは言えないのです。だから、

私たちは決めなければいけないのです。「神さま、私は兄弟姉妹を愛する者として、改めて今日から歩んでいきたい。」と。感謝なことに、神はあなたを救ってくださり、それが実現可能な者へと生まれ変わらせてくださったのです。だから、私たちは「神さま、そんな人に変えられたい、そんな人として成長していきたい。」とそのような願いをもって生きることです。

神の命令とは何か？この救いに与ることであり、そして、兄弟を愛することです。神はそれをあなたに望んでおられるのです。この中でまだイエス・キリストを信じていない方、神があなたに命じていることは同じです。「罪を悔い改めて、わたしを信じなさい。わたしに逆らい続けるのではなくて、わたしを信じてこの救いを求めて出て来なさい。」と言われます。主はそのようにあなたを招いておられます。そして、あなたが救いに与ることによって、この主の命令に従う者へと神があなたを変えていってくださるのです。

3. 神の恵み

さて、この23節のみことばで見ていただきたいことがもう一つあります。「信じる」ということばと「愛し合う」ということばのこの二つの動詞の時制です。文法的に見ることが大切なわけは、そこに大切なメッセージがあるからです。

1) 御子イエス・キリストの御名を信じること

「信じる」という動詞の時制は「過去」のことを言っています。いつとは言っていない。過去の事実を述べたのです。なぜなら、このヨハネからの手紙を読んだ人々は、殆どの人がすでに救われていたでしょう。ですから、「信じた」ということは過去のことです。

2) 互いに愛し合うこと

ところが、「互いに愛し合う」の「愛し合う」という動詞は「現在」のことです。ですから、信じた者たちはその時点から継続して、習慣的に、兄弟を愛し続けるということです。あなたがこうして愛し続けていくことができるのは、あなたが主を信じたからだと言うのです。先程も話したように、あなたが信じた主が、もっと正確に言えば、あなたを救ってくださった主が、愛を実践する者としてあなたを変え続けてくれるということです。

神学者ジョン・ストットは「『信じる』と『愛する』の時制には著しい違いがある。『信じる』とは決断的行動、『愛する』とは継続的態度を表わしている。どちらも、真のクリスチャンの検証方法である。」と言います。あなたがたとえ「信じた」と言っても、あなたの生き方が変わっていなければ、あなたの信仰というのは本物でない可能性がある、そのことはヨハネが繰り返し教えてくれました。しかし、神が救ってくれた場合、あなたは生まれ変わります。あなたは新しい者に変えられること、兄弟を愛すること、それもあなたが救われていることの証であると言うのです。

B. 救いの証拠 24節

24節は、これまで見て来たように、救いの証拠について、救われている証拠について教えてくれます。「神の命令を守る者は神のうちにおり、」とあります。「神のうちにおり、」とは？私たちがみことばを理解するときに大切なことは文脈を見ることです。ヨハネが綴ったこの手紙の中でこのことばがどのように使われているのかを見るのです。実は、これと同じような表現があるのです。1ヨハネ2：6を見てください。「神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」と。「神のうちにおり、」と「神のうちにとどまっている」は同じことです。これは「救い」のことです。そして、その人が救われていることがどのようにして分かるのか？

その証拠：

1. 神の命令を守る

みことばは「神の命令を守るから」と教えています。神の命令を守る人は救われていると言っています。確かに、失敗をするのですが、その中でも神の命令に従っていきたいという願いを持って歩んでいるのです。日頃の生活を振り返る時に本当に嫌になります。「どうしてこんなに不信仰なのだろう？ どうしてこんなに信仰的に弱いのだろう？」と。でも、少なくとも、心の中には、神に喜ばれることをしていきたい、神の命令に従って行きたいという思いを持っている、その思いがあります。なぜなら、あなたが救われているからです。あなたがキリストのうちにいるからです。神がその人のうちにおられるのです。神があなたのうちにいるのです。そして、神があなたのうちにいるゆえに、神に従う者へと神があなたを変えてくださったのです。

Ⅰペテロ 1：2に「父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように。」とあります。ペテロのクリスチャンに対する挨拶です。ここにペテロが記していることは、父なる神の予知によってあなたは救われているということです。あなたが神を選んだのではない、あなたが救われたのは神の予知に従っていると言います。また、あなたが聖められたのは聖霊なる神によって聖められたからだと言います。しかも、「血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ」と書かれています。

「血の注ぎかけ」とは聖めのこと、罪からの聖めのことです。ですから、これらはすべて「救い」のことです。

ですから、「あなたが救われたのは、」と言って、「イエス・キリストに従うように」あなたは選ばれたと続きます。ですから皆さん、神の命令に従って行こうとするのはなぜか？ あなたはそのような人へと生まれ変わったからです。それが救いなのです。天国に行けるその保証を頂いたと、それで終わりではないのです。神があなたを救ってくださったら、神があなたを生まれ変わらせてくださって、神があなたのうちにおられて、その神が神の命令に従って行くようにあなたの心に働きかけられるのです。だから、従って行こうとするのです。これが神の救いなのです。ですから、救われている人の証拠は何か？ 神の命令に従って行きたいという、その思いが心のうちにあるということです。

2. 聖霊の内住

救われている人は聖霊なる神を頂いているゆえに、その聖霊なる神が確信を与えてくれるのです。

Ⅰヨハネ 4：13に「神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。」とあるように、救われたなら、私のうちに神がおられるという確信を神が与えてくれるのです。神が私のうちにいるし、私は神によって受け入れられているという、その確信を神は強めてくださるのです。確かに、イエスを信じた時には自分の救いが不安でした。でも、信仰の成長とともに「主は私のうちにおられる。そして、私のような者を神は受け入れてくださった。」と、その確信を神ご自身が与えてくれるのです。そのようにみことばは教えます。

3. 罪から離れる

Ⅰヨハネ 1：6にそのことが記されています。「もし私たちが、神と交わりがあると言っているが、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行ってはいません。」と、逆説的に見るなら、神と交わりがある人は真理のうちに歩み続けると言うのです。罪から離れる、「やみの中を生きている」とは罪の中を生きていることです。そのような生き方から離れるということです。ですから、救われた者たちは罪の中を歩み続けること、留まり続けることができないのです。罪の中を歩ん

でいると苦しくなって来るのです。心が「間違っている！」と叫び続けるのです。「離れなさい」と言います。ですから、私たちは罪から離れようとするのです。

4. 罪を告白する

Ⅰヨハネ 1：9「にあるように、救われている人は罪から離れようとするだけでない、罪を犯した時にそれを神の前に告白しようとします。「もし、**私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。**」、「神さま、私は間違っていました、赦してください。」と言って神の前にその罪を告白するのです。

5. キリストが歩まれたように生きようとする

Ⅰヨハネ 2：6「**神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。**」、そのような新しい生き方をしていこうとするのです。それは救いを得るためではありません。そのような願いを神が与えてくれるのです。なぜなら、救われているからです。

6. 兄弟を愛する

何度も見て来ました。Ⅰヨハネ 2：9，10に記されていました。「**9 光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。10 兄弟を愛する者は、光の中にとどまり、つまずくことがありません。**」、救われた者は兄弟を愛そうとします。

7. キリストを信じ続ける

神によって救われた者たちはキリストを信じ続けていきます。Ⅰヨハネ 2：19「**彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうになったのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。**」、「もうやめた、もういいわ」ということにはならないのです。

8. 義を行なう

Ⅰヨハネ 2：29「**もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずです。**」、神の前に正しいことを行なっていこうとします。罪から離れるだけでなく、却って、私たちは神の前に喜ばれること、正しいことを行なっていこうとするのです。ですから、例えば、人間関係においても私たちは正しいことをしようとしてします。いつも自分に間違ったことがないかどうかと問いかけるのです。私たちは礼拝の前にいつも詩篇のみことばをスクリーンで見えています。詩篇 139：23－24「**神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。24 私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。**」と、自分の心を探ろうとするのです。「神さま、教えてください。あなたの前に喜ばれないことがあったら教えてください。私はそれを悔い改めて正しく歩んでいきたい。」と、義を行う者たちに神は変えてくださったのです。

9・祈りの答え

救われた人はその祈りが変わります。Ⅰヨハネ 3：22で見た通りです。神のみこころに沿って祈っていきます。神のみこころを求める祈りをするのです。

10. イエス・キリストを告白する

Ⅰヨハネ 4：2「**人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。**」、私たちはイエス・キリストを信じているということを公に告白するのです。イエスが私の神だということを告白するのです。イエスによって救われたということを告白するのです。それは聖霊なる神がそのような働きを私たちの内側から為してくれるからです。

1 1. 神を愛する

もう何度も見ているように、私たちは神を愛します。私たちはことばだけでなく行ないをもって神を愛していることを明らかにしていくのです。その一つが「兄弟を愛すること」です。彼らの必要に答えていくことです。神を愛するという新しい願いが私たちに与えられました。なぜなら、それは救われたからです。

1 2. 神の平安

確かに、私たちの日々の生活においていろんなことが心を騒がせます。病気かもしれないし、愛する者との別れかもしれないし、仕事を失うことかもしれないし、いろいろな困難と思えることがたくさんあります。でも、その中にあっても感謝なことに、私たちイエス・キリストを信じる者たちは神の平安をもって生きることができます。イエスはこのように言われました。ヨハネ 14：27 **「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」**、ですから、本当なら心を騒がせていてもおかしくないのに、人をののしっていてもおかしくないのに、人の悪口を言ってもおかしくないのに、その人の心の中には平安があるのです。それは救われたからです。そのような約束を神は与えてくださったのです。

1 3. キリストにお会いするのを楽しみにしている

1ヨハネ 3：2－3 **「2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。3 キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」**、早くイエスにお会いしたい、私を罪から救い出してくださったこの真の神である主イエス・キリストに早くお会いしたいと言うのです。

「私が救われていることが分かるのでしょうか？」と...、分かります。あなたのうちにおられる聖霊なる神がそのことを明らかにしてくださるのです。あなたの心を変えてくださっているからです。同時に、客間的に見て、あなたが救われていることが分かります。周りの人々がそのことに気付くのです。なぜなら、あなたのうちに神がおられ、その神があなたを変え続けておられるからです。

思い出してください。イエスがあのニコデモと会話をしているところです。ヨハネの福音書 3章に記されています。イエスは面白いことを言われました。3：8 **「風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」**と。残念ながら、私たちは風を見ることはできません。でも、風が吹いていることを見ることはできます。肌で感じることもできるし、木の葉が揺れているのを見たり、土煙が舞うのを見たり、様々な現象を見て私たちは風が吹いていることに気がつきます。でも残念ながら、私たちは風自体を見ることはできない。イエスが言われたのはこのことです。**「御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」**と。神によって生まれ変わった者たちは外から見て分かるのです。この人たちのうちには神がいる、この人たちは変わったと。そのような働きを神が為さるのです。兄弟を愛することもそうです。主のみこころに沿った祈りをすることもそうでした。神の命令に従って生きていくこともそうでした。それらはすべて、あなたが救われたからです。

もうすでに、救いに与っている皆さん、こんな祝福に神は招いてくださったのです。この地上にいても神はあなたとともにいてくださるし、あなたを見捨てることもないし、あなたとともにいてあなたを励まし、あなたに力をくださり、あなたにみこころを教えてくださる。クリスチャンでしか味わえない

このようなすばらしい人生を味わえるのです。この地上にいても…。それはあなたがそのような歩みをする時に、あなたのうちにおられる神を世に証するからです。そして、私たちはその方にお会いするのです。私たちのために十字架で死によみがえった、そして、今も生きておられる真の神イエス・キリストに…。すばらしい楽しみが待っています。そして、与えられた今日をこの楽しみを抱きながら生きることができます。

イエス・キリストをまだ知らない人がここにおられるなら、どうぞ、今日、あなたが心開かれることを願います。神はあなたに命じておられます。「わたしを信じなさい。あなたを造った創造主なる神であるわたしを。あなたを罪から救ってくれる救い主なるわたしを。わたしを信じなさい！」と。今日がその日となることを心から願います。

《考えましょう》

1. あなたは救われた感謝をどのように表わしていこうと決心されましたか？
残された人生をどのように生きて、あなたの感謝を主に表わしたいと考えますか？
2. なぜ自分の願いではなく、「主のみこころ」を求めることが大切なのでしょう？
3. 「イエス・キリストの御名を信じる」ことの意味を説明してください。
4. 「救われていること」は分かると聖書は教えます。では、どのようにして救われているかどうか分かるのでしょうか？あなたのことばで書いてください。